



南葵音楽文庫ミニレクチャー

# 和歌山をうたう

～万葉のうた、民謡、唱歌、近代詩、歌曲～

林 淑 姫

南葵音楽文庫  
和歌山県立図書館内  
和歌山市西高松 1-7-38  
tel.073-436-9500

2020年2月15日(土) 11:00

南葵音楽文庫閲覧室(和歌山県立図書館内)

## 万葉のうた (主観的例示)

若の浦に潮みちくれば潟をなみ 蘆辺をさして鶴鳴き渡る 山部赤人(万葉集巻六)

巨勢山のつらつら椿つらつらに 見つつ思(しの)はな巨勢の春野を 坂門人足(巻一)

苦しくもふりくる雨か神(みわ)の埼 狭野のわたりに家もあらなくに 長忌寸奥麻呂(巻三)

風早の美保の浦廻(うらみ)の白つつじ 見れどもさぶし亡き人思へば 河辺宮人(巻三)

三熊野の浦の浜木綿百重なす 心は思へど直に逢はぬかも 柿本人麻呂(巻四)

妹に恋ひ吾が越え行けば背の山の 妹に恋ひずてあるが羨(とも)しさ 詠み人しらず(巻七)

## 小学唱歌集初編(1882)

### 第六 和哥の浦

The image shows a page from the 'Sho Gakko Shu' (1882) with handwritten lyrics and musical notation. The lyrics are written in vertical columns on the left, and the musical notation is on the right. The lyrics are:

第三 あづれ  
一 あづれ。〜。廣野のひかり。  
二 のほき。〜。川瀬より若船。  
第四 いま  
一 いはへ。〜。きまの代いはる。  
二 志げき。〜。うけけり小ね。  
第五 子代り  
一 ちより。〜。子代りききみも。  
二 いませ。〜。わがこころちより。  
第六 わかの浦  
わかの浦わに。夕しほみちくれば。きしのむら鶴(づる)あし辺に鳴きわたる。  
きしのむら鶴(づる)あし辺に鳴きわたる。

The musical notation is in G-clef, 2/4 time, and includes lyrics in hiragana and katakana.

わかの浦わに 夕しほみちくれば きしのむら鶴(づる)あし辺に鳴きわたる

### 打垣内正と「万葉のうた」

打垣内正（うちがいとしょう 1907－1995）  
海南市生まれ。音楽好きの家庭に育つ。1927年、和歌山師範学校専攻科（音楽）卒業。在学中に明治神宮競技大会（現在の国体）に陸上選手として出場。走り幅跳び、三段跳び、短距離走者として活躍。卒業後女子師範附属日方小学校、和歌山師範学校等で教鞭をとり、戦後和歌山大学教授。日方小学校勤務時代に夏休みごとに上京し、下総皖一（和声）、福井直俊（ピアノ）、木下保（声楽）に師事。1937年、海南市委嘱により「海南市歌」を作曲したことをきっかけに校歌等を作曲、総数80曲を数える。旧制和歌山高商寮歌（1940）は和歌山大学《逍遙歌 花の霞に》として現在まで歌い継がれている。1960年代より和歌山の歌の作曲をてがけ、作曲集「紀の国の歌」（1967）、「続紀の国の歌」（1980）を刊行。つづいて万葉集に基づく歌曲を作曲、ライフワークとした。歌曲集「万葉の歌」（1981）、「続万葉の歌」（1983）、「万葉の花」（1985）、「万葉の紀州路」（1987）、「万葉の大和路」（1991）が刊行されている。（120曲所収）。実弟に洋画家雑賀紀光。

### 和歌山を題材とした楽曲（抄）

地理教育鉄道唱歌（多梅稚曲、大和田建樹詞、1900）  
和歌山県周遊唱歌（前田久八曲、鳥山啓詞、1901）  
毬と殿さま（中山晋平曲、西條八十詩、1929）  
白浜温泉音頭（中山晋平曲、檀上春清詞、西城八十補、1934）  
紀の国の歌（信時潔曲、1937） \*合唱曲  
和歌山県民歌（山田耕筰曲、西川好次郎詞、1948）  
和歌山市歌（山田耕筰曲、佐藤春夫詩、1955）  
紀の国のはるに寄せて（森川隆之曲、島田博雄詩、1981） \*合唱曲  
紀州路（團伊玖磨曲、辻井喬詩、1983） \*ソプラノ、クラリネット、混声合唱、ピアノのための  
紀の国変奏曲 フルートのための（横田年昭曲）  
紀の国のこどもうた（松下耕曲） \*合唱曲  
和歌山のわらべうたによるコンポジション（信長貴富曲） \*合唱曲 ほか

### 「ふるさと讃歌 紀州路 100 曲」

「ふるさと讃歌 紀州路 100 曲」は、1982年、和歌山市民合唱団定期演奏会「和歌山のうた」に随筆家梅田恵似子（1931-）の作詞した楽曲を、和歌山大学助教授で作曲家の森川隆之（1940-）が編曲して発表したことをきっかけとして始まった。その後、同合唱団「和歌山の新しいうた」での演奏が毎日新聞（和歌山版）の注目をひくところとなり、85年4月より梅田・文、森川・曲、西本洋・写真により「ふるさと讃歌 紀州路 100 曲」が連載開始となった。紙上で発表された作品は県内の合唱団等により次々に上演され、生き生きとした歌声に乗って届けられた。4年2か月にわたる連載を終えた1989年7月には市制100周年コーラス・フェスティバルで和歌山市合唱団協議団主催により記念演奏会が盛大に開催された。1990年にサントリー地域文化賞受賞。楽曲は梅田恵似子著『随筆 ふるさと讃歌 紀州路 100 曲』に旋律譜が収録されている。また伴奏が付された歌曲、合唱曲は、森川隆之『紀州の歌』『紀州の愛唱歌 I』（いずれも1990）に収められている。森川隆之は富山県生まれ。東京芸術大学作曲科卒。1968年より和歌山大学で教鞭をとる。和歌山大学名誉教授。2011年に和歌山市文化賞受賞。作品はほかに「混声合唱と管絃楽のためのコンポジション」「ピアノのための主題と変奏」、混声合唱組曲「紀の川」など。